活躍する卒業生

様々な分野で活躍する卒業生に、お話を伺いました。卒業生の「今」を紹介します。

淑徳大学地域創生学部開設準備室　勤務

市東　真一さん

平成25年３月　国文学科卒業
平成27年３月　國學院大學　文学部日本文学科卒業

チセでの一人の焚火から

私が國學院大學北海道短期大学部に入学したのは、渋谷にある本校へ編入学するという目的だけでした。単純に、自分の望むところにどうやったら行けるのか、それだけをひたすら２年間考えていました。当時の楽しみと言えば、同級生とのカラオケや麻雀、さらにはテレビゲームをすることでした。それ以外に、短大敷地内にある伝統的なアイヌ民族の住居である笹葺きの家「チセ」を保存管理するための焚火のボランティアでした。単純に、チセの中で焚火をやることがただ楽しいという理由だけで、このボランティアをやっていました。チセで焚火をする時は、別にそれで報酬が貰えるわけではない、生活が楽になるわけでもない、それでも無性に続けていたいと感じていました。

そして國學院大學へ編入学して、短大入学当初の目的を達成しました。一方で、一緒に勉強していた同級生とのつながりは希薄になり日々孤独を感じていました。そうした中で、いつも記憶に残っていたのは、あのチセでの焚火でした。千葉県での祭礼に参加して調査していたところ、あのチセの焚火で感じた無性な楽しさが蘇ってきました。それから、気が付くと私は民俗学の研究者を目指していました。

國學院大學を卒業してから、神奈川大学歴史民俗資料学研究科に入学し、そこで修士・博士号を取得しました。令和２年には日本民俗学会第40回研究奨励賞を受賞し、令和３年には日本学術振興会の出版助成金160万円を取得、博士論文を単著として刊行しました。そして、現在の所属先である淑徳大学へ就職しました。

ただ、漠然と民俗学の研究が楽しいからやっている、それだけの理由でここまで来ました。それには、國學院大學北海道短期大学部で勉強した日本文学の知識や、恩師である月岡先生の指導があったからでしょう。たぶん、滝川に来ていなければ、全く違う人生を歩んでいたと思います。現在でも、様々な地域で調査を行っている時、あのチセでの無性な楽しさが今でも蘇ってきます。私は今もなお、あのチセで一人黙々と焚火をしているのでしょう。

滝川中央保育所　保育所長

佐藤　幸恵さん

平成３年３月　幼児教育科（現 幼児・児童教育学科
幼児保育コース）卒業

滝川の街の人たちに支えられて

國學院女子短期大学に入学してから今に至るまで、滝川の街のたくさんの方々に助けられてきました。

当時、アパートの大家さんが、短大弓道部の指導をされていたこともあり、弓道部に入りました。仲間と一緒に、学生弓道大会で上位を目指して練習に励んだことも、楽しい思い出です。32年経った今でも集まるほどの、仲良し部員です。滝川市の弓道連盟の方々にもご指導いただき、昇段試験にも皆で合格することができました。

幼児教育科の専門科目の講義は、個性豊かな先生方が多く（笑）、とても新鮮だったことを覚えています。中でも、保育士の方が講師をしていた科目では、授業の内容を細かくノートに取っていた記憶があります。その頃、保育の現場に、強く興味を持ち始めたと思います。

初めての保育実習では、毎日が楽しくて、あっという間に終わってしまったことを鮮明に覚えています。実習後、短大の先生に、「冬休みにも実習に行きたいです!」と希望し、再び受け入れていただきました。今考えると、なんと図々しい学生だったのだろうかと思いますが。実習先の先生方には、温かく迎え入れていただき、その実習がきっかけで、とにかく、「保育」が大好きになってしまいました。将来、「絶対に保育士になる！」と心に決めたのも、この実習の時でした。今でも実習先の先生方には、本当に感謝しています。それから１年半後、念願だった「保育士」としての第一歩を踏み出しました。

保育士１年目は、子どもの命を預かるという安全意識の低さと視野の狭さから、ケガをさせてしまったり、無力な自分に涙があふれた日もたくさんありました。指導し、支えてくれた先輩保育士の先生方、そして保護者の方々の寛大さ、本当に有り難い限りでした。

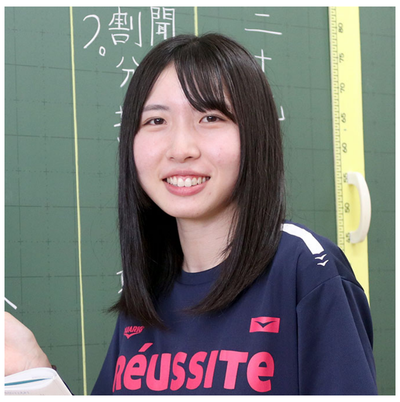
今、「保育」に夢をもって入職した新人保育士２名を職場に迎え、かつて自分が感じていた気持ちを思い出しています。

お世話になった滝川の街に、少しでも恩返しができるよう、「保育」の楽しさを伝えていけたらと思います。

滝川市立滝川第三小学校　教諭

中島　未貴さん

令和２年３月　幼児・児童教育学科児童教育
コース卒業



児童教育コースのおかげで小学校教諭になれました

現在私は、滝川市立滝川第三小学校で学級担任として、子どもたちと一緒にたくさんのことを学んでいます。そんな私は、小学校から大学まで全て滝川市で過ごしてきました。

小学校教諭を目指したきっかけは、私が小学１・２年生の時に担任だった菊池先生のようになりたいと思ったからです。菊池先生は、子ども同士のトラブルを見逃さず、きちんとお互いの話を聞いたうえで指導をしていました。私も子どもたちに寄り添った丁寧な指導を心掛けたいです。

私が小学校教諭になるために学んだ短大での思い出は、２つあります。

１つ目は、児童教育コースのみんなと過ごした学校生活についてです。当時、児童教育コースには私も含め28名の学生が在籍していました。この28名で小学校教諭になるために、先生役と児童役になり模擬授業をしたり、稲作を体験したりと様々な経験をしました。このコースは、座学だけではなく体験的な講義がたくさんあり、勉強が苦手な私でも「楽しい」と思える講義ばかりでした。

２つ目は、教育実習です。母校の滝川市立東小学校で１年生の担当になり、子どもたちとの関わりや授業を教える大変さを知りました。心が折れそうになりましたが、指導教諭の下谷先生を始め東小学校の先生方が寄り添ってくださったおかげで、実習期間の３週間を乗り越えられ、自分が「来年には小学校教諭になる」という意識を高く持つことができました。

小学校教諭になるためには、小学校教諭２種免許取得のほかに教員採用試験に合格しなければなりません。1次試験は筆記問題、２次試験は当時ピアノや水泳の実技と面接などがありました。児童教育コースの田代先生に面接の極意を教わり、自信をもって面接に臨んだことを覚えています。

教員採用試験に合格し、小学校教諭として働いてからは、短大で学んだすべてのことが現場で生かされていることを深く実感しています。

私の今後の目標は、「楽しい授業」ができるようにすることと、子どもたちが素直で優しい人に育つように指導することです。第三小学校の先生方からたくさんいいところを吸収して学び、理想の先生に近づけるようにこれからも頑張っていきたいと思います。

日本航空株式会社　勤務

山田　元美さん

平成23年３月　総合教養学科卒業
平成25年３月　國學院大學 文学部外国語文化学科卒業

夢を持つことは大事なこと諦めなければ、夢は叶う

小学生の頃より飛行機に対する憧れがあり、中学生からは本格的に自分の道を探し始めました。当初は、パイロットを目指し東京の大学への進学も視野に入れていましたが、國學院出身の進路指導部の先生から、「國短は國學院大学へ編入学できる制度があり、アットホームな環境下で勉強に取り組めるよ」と聞き、國短に決めました。入学後、本格的にパイロットへの道を深く調べていくうちに、客室乗務員の仕事に魅力を感じ、この仕事が夢となり、新たな目標に向かって進み始めました。

授業の出席率は一番になろうと心がけ、いつも友人たちと一番前の席に座って講義を受けたことを鮮明に覚えています。短大時代の１番のエピソードは、國學院大學の国際交流課に相談し、２年生の時にオーストラリアに留学したことです。英語の勉強に力を入れていた私に、昼休みや放課後等を利用し、英文法や英会話を指導してくださった先生方には、今でも感謝しています。選択科目で受講した体育では、滝川ならではの自然をキャンパス内で体験することができ、色々な発見がありました。國短は私の好奇心を高め、世界を身近に感じさせてくれるきっかけの場所でした。おかげで卒業時には、成績優秀者として表彰していただくこともできました。

学生数が少ないので学生同士の距離が近く、困ったことがあれば助け合い、高め合える環境でした。教職員の皆さんも、親身に相談に乗ってくれました。振り返ると、國短での２年間が今の私に大きな影響を与え、無駄なことは一つもなかったと自信を持って言えます。

平成25年、夢が実現し客室乗務員になりました。平成30年には結婚し、翌年第一子を出産しました。育児休暇を経て復帰した後も、国際線のロングフライトを担当できたのは、家族や周りのサポートのおかげです。今年、第二子を授り、現在育児休暇中です。家族との時間を大切に過ごしながら、今後の目標である機内アナウンスインストラクターになるため、アナウンスの技量をより向上できるよう日々励んでいます。仕事と子育ての両立は、キャリアアップをする上で、周りと比べるとゆっくりかもしれませんが、いつかは教官という道を切り拓いていけるよう、これからも精進していきます。

私のモットーは、「笑う門には福来る」。笑顔で過ごしていると、笑顔の仲間が集まり、ハッピーがつながる。もちろん辛い時は泣いてもいいし、助けを求めてもいいけれど、基本は笑顔で！お客様から「素敵な笑顔に心が癒された」と職場にメッセージをいただいたときは、本当に嬉しかったです。この気持ちと笑顔を忘れなければ、来春を予定している職場復帰後も頑張っていけると信じています。

数字をみると見えてくる國學院短大の強み

令和４年度 児童教育コース 教員採用状況

教員を目指すなら國学院

北海道公立小学校教員採用試験

國學院短大生 13名 合格

國學院大學に編入学した学生 12名 合格

〈採用の内訳〉

北海道	5名
東京都	2名
神奈川県	3名
横浜市	2名

記載の情報はすべて令和4年3月31日現在のものです。

令和４年３月卒業生 進路決定率

就職 32名

国文学科	10名
総合教養学科	5名
幼児保育コース	11名
児童教育コース	6名

主な職種　公務員、金融機関、司書、ホテル業界、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭

就職サポート
個人指導と多様なスキルアップメニュー

ワークスタディ ▶ 先輩が学校生活をバックアップ!
学内の業務に携わりながら、社会人基礎力を養成する、学内のワークスタディという制度が充実しています。

キャリアセンター ▶ 就職活動を支援
個別指導を基本に就活合宿や模擬面接などを実施して、地方公務員、一般企業、福祉事業など職種別の細やかな就職活動を行っています。

進学 181名
（國學院大學へ編入学　166名）

[編入学]	
国文学科	67名
総合教養学科	80名
幼児保育コース	1名
児童教育コース	29名
[専門学校]	4名

國學院大學・他大学への編入学サポート

本学から國學院大學の5学部（子ども支援学科、観光まちづくり学部除く）3年次への推薦編入学が可能となっています。推薦基準を満たし、編入学枠内であれば希望学科に合格することができます。本学から國學院大學3年次への編入学時に、入学金の一部（18万円）が減免されます。また、道内や道外の多数の大学に指定校推薦編入学が可能となっています。（北海学園大学、北翔大学、駒沢大学など）

国文学科	95.3%
総合教養学科	94.7%
幼児・児童教育学科 幼児保育コース	100%
幼児・児童教育学科 児童教育コース	100%